

組織目標評価報告書（令和6年度）

3

部局名：

文学部

学域名：

社会文化科学学域(文)

部局長名：

田中共子

目 標 ・ 取 組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	
		教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
1. 入試における志願者と倍率の確保を課題として、以下を実施する。 ①UAAと連携して高校のニーズや社会の動向を踏まえた教育情報の発信を行い、志願倍率を向上・安定させるための対策を実行する。 2. 新学習指導要領で学んだ学生に対応する教育改革の実質化を課題として、以下を実施する。 ①学修者主体の学びと、教育の内部質保証の仕組みを強化するために進めてきた教育プログラム改革を前進させる。主専攻プログラム、人文学総合プログラム、アドバンスプログラムの成果を検討し、必要に応じて改善する。研究力養成プログラムの2025年度開始に向けた準備を整える。 3. 現状を見据えた学生支援と学習環境の充実を課題として、以下を行う。 ①単位の修得状況に問題のある学生やメンタルに不調をきたした学生への対応を行い、休学率を低下させるための対策を実行する。 ②留学生の派遣、受入に関して、コロナ禍前の水準への回復を目指して、新たな交流を展開する。	(2-1) (2-2) (3-1) (4-1) (7-1)	1. 入試における志願者の確保と倍率向上を課題として、以下を実施した。 ①高校訪問を8校、訪問受け入れを18件を実施し、HPで募集を周知して要望に応えた。講演会と文学部説明会のセットプランを新設し、山口県で4校、受け入れで2件を実施した。オープンキャンパス第二部は、来場制限を撤廃し、また当日の模擬授業等の動画を特設サイトへ掲載することで、より広く情報を届けた。前期入試倍率が3.1倍から2.8倍に微減したので、この水準継続が今後の課題である。 2. 新学習指導要領で学んだ学生に対応する教育改革の一環として、以下を実施した。 ①FD委員会主催の学生との懇談会で、約20件の意見・要望を収集し、可能な対応を実施した。教育プログラムの具体的なスケジュールの配信体制を整備し、周知を図った。完成が課題だった研究力養成プログラムは、修了要件単位数を確定させて、次年度開始の環境を整えた。 3. 現状を見据えた学生支援と学習環境の充実を課題として、以下を行った。 ①2学期あたり単位取得が15単位未満の場合を要指導学生とし、指導教員が面談し学生生活委員会が情報を集約した。丹念な指導が行われ、休学率は3.0%から2.6%に減少した。部局が独自で設置した文法経学生・院生相談ルームや、全学の障がい学生支援室と連携し、継続的に学生支援を行った。なお学内で初めて盲導犬ユーザーの学生を受け入れ、先駆的な環境整備にあたった。 就職支援のため、文学部独自の就職説明会を主催した。 ②年間交流実績は、受入れ27名(中国6、タイ5、フランス5、ドイツ3、韓国2、インドネシア・トルコ・台湾・セルビア各1)で、コロナ禍前の水準へ回復してきた。新たにインドネシアとの交流を開始し、海外研修を単位化する「異文化体験」の授業を発展させ、タイ8名、インドネシア7名の履修を教員が引率した。タイからは留学生5名と教員1名の訪問を受け入れた。共修授業の一環として国際交流イベントを開催し、学部生と留学生約50名の交流の場を築いた。フランスとは、ボルドー・モンテニュ大学などとの交流を継続した。今後はさらなる制度設計と、一部減少傾向の交流先との交流回復が課題である。
②研究領域	関連する 中期計画の番号	
		研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	
		社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
1. 実社会における地域貢献と情報発信の実践を課題として、以下を行う ①効果的な地域との連携、高大連携事業のあり方を検討し、実行する。 ②文学部の特徴や研究・教育活動を、より詳細に社会に発信する手段としてHPの活用を進め、研究成果の紹介、イベントの告知と報告、外国語での情報提供の充実を実現する。 ③SDGsに関する取り組みを促す方策を実行する。 2. 現代社会における建設的な国際貢献の実践を課題として、以下を行う ①大学間協定・部局間協定を充実させ、文学部の将来構想において重要となる協定校との絆を強化する。特に近年国際交流協定を結んだ大学との間で立ち上げた新企画を着実に実行し、軌道に乗せる。 ②日本語・日本文化研修留学生等の国費留学生を積極的に受け入れ、国際交流行事を開催する。	(1-1) (7-1) (11-2)	1. 実社会における地域貢献と情報発信の実践を課題として、以下を行った。 ①地域貢献では、教員17名が計62件の地方自治体の審議委員などを務めた。そのほか教員7名は、心理相談・心理支援・心理教育・自治体主催公開講座・地域日本語教育事業・文部科学省日本語教師養成・研修推進拠点整備事業・岡山史料ネット・NPO法人ハンセン病療養所世界遺産登録推進協議会・熊本大学文書館・JST-採択課題プロジェクト主催の研修会・放送大学客員教授・公務員試験問題の作成などを担った。高大連携では、教員17名が計26件の高大連携事業、教員10名が計20件の公開講座等に携わった。 ②HPでは、文学部の教育・研究の特色と強みを発信し、講演会・シンポジウムの広報、研究活動の紹介などを提供した。 ③SDGsに関しては、教員4名がSDGs事例集への登録を行った。文学部SDGs卒業論文賞を新設し、その規定を整備して次年度選考開始の準備を整えた。 コロナ後の対面活動再開で地域貢献が復活していく中、さらなる展開が課題として挙げられる。 2. 現代社会における建設的な国際貢献の実践を課題として、以下を行った。 ①部局間交流を展開し、多言語・多文化交流を推進した。タイのカサセート大学、タマサート大学、シー・トウム大学、インドネシアのドクターストモ大学、ハサスティン大学、フランスのボルドー・モンテニュ大学、韓国の国民大、トルコのチャナッカレ大学等と、教員・学生による多面的な交流事業を実施した。 ②留学を終える留学生5名が成果を発表し教員と懇談する、成果報告・昼食会を実施した。新たに日本語・日本文化研修留学生など、国費留学生2名の受け入れを開始した。留学生担当教員の企画で、文学部学生・教員と留学生との交流パーティーを開催した。 コロナ後の国際移動の再開に伴い文学部の国際交流も復活してきたが、さらなる質的量的な充実が引き続きの課題である。
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	
		管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
1. 業務の複雑化が進む中で、業務構造の改革と構成員のウェルビーイング向上を課題として、以下を行う。 ①業務構造の整備と負担の軽減策を実行する。学部長のリーダーシップを支える体制として執行部と委員会の連携を強化する。部局内サバティカル制度(長期研修制度・特別研究期間制度)、全学の各種休業制度の利用実績を挙げる。文明動態学研究所への移籍教員の業務負担に配慮した調整を実行する。学部長室の非常勤職員を、戦略的な事業に関与させる。会議の整理と効率化、会議時間の短縮を実行する。 ②財源の有効活用のため、支出構造を見直し、教育基盤経費の重点配分を実行する。 ③リスクマネジメントなど、運営上の重要事項の情報共有をはかる研修を行う。 2. 優秀な人材を確保し、部局の活性を高めることを課題として、以下を行う。 ①採用人事では広く人材を募り、女性や外国人の採用や昇任を実現する。 ②中長期的な将来展望を視野に入れて人事計画の集約を進める。	(11-2) (13-1) (14-1)	1. 業務の複雑化が進む中で、業務構造の改革と構成員のウェルビーイング向上を課題として、以下を行った。 ①学部執行部、副研究科長、5つの学部委員会の委員長で学部長室会議を編成し、11回開催した。長期研修制度1名、特別研究期間制度1名、出生育児休業1名、育児休業1名の取得があった。文明動態学研究所所属教員の業務負担軽減策を講じ、委員分担等に関して実施した。学部長室の非常勤職員が、広報活動の実施等に携わった。会議では、効率的な審議に努め、teamsやMicrosoft formsの情報集約を活用するなどして、会議時間の短縮を進め、3年前と比較して定例教授会は6割程度、定例学系会議は4割程度に削減した。 ②予算配分の見直しを進め、教員研究費は金額に段階を設け、教育基盤経費は通常枠のほか、特別枠を設けてその採択数を増やし、重点配分を実施した。広報予算を調整し、入試広報などを手厚くした。 ③情報セキュリティ、ダイバーシティなどを主題として、6回の研修を実施した。 2. 優秀な人材を確保し、部局の活性を高めることを課題として、以下を行った。 ①女性教員は、公募を経て2名の新任が着任し、1名が昇任し、1名がデニュアを獲得し、2名は次年度昇任の承認を得た。外国人教員は、1名が次年度昇任の承認を得た。なお本報告時点での比率は、女性教員38.3%、外国人教員8.5%、若手教員(40歳未満)10.6%、教授内女性教員28.6%である。上位職の多様性向上が課題である。 ②次年度末のポスト返却予定など、中長期的人事計画を人事委員会が審議し、教授会で展望を共有した。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。